

法人総括（2016 年度）

「子どもサポート」、「大人サポート（障害・高齢）」、「地域サポート」の3つの領域に分け、法人指針との関連から各領域の事業概要を報告する。

1 子どもサポートの概念

子どもサポートは、図表1のとおり、名護わかば園、カラーズ、kids Libraryの3つの事業を展開している。子どものライフステージ、ライフサイクルにおけるニーズ、その家族の生活ニーズに合わせたサービス提供体制の整備をめざしている。

図表1 子どもサポート事業		
名護わかば園	児童入所事業	子どもに暮らし環境の提供(教育保障、生活・学習サポート)
	短期入所事業	子どもに一時的な暮らし環境の提供(本人・家族サポート)
	日中一次支援事業	早朝、夕方の時間の安心ある場所の提供(家族サポート)
カラーズ	発達支援事業	就学前の子どもサポート(保育所との連携)
	放課後デイサービス	学校終了後、長期休暇の子どもサポート(生活・学習サポート)
	日中一次支援事業	早朝、夕方の時間の安心ある場所の提供(家族サポート)
Kids Library	相談支援	日常生活や学校生活に困っている子ども・家族を対象
	復学支援	復学準備、学習支援(食育含)、進学(高校)サポート

まず、家族の生活ニーズを観ると、保護者の疾病、早朝勤務、夜間勤務、他家族の介護等への配慮を理由とした短期入所の利用が増加している。一方、子どものニーズを観ると、貧困や虐待を背景にした家族との暮らしが困難な状態、対人関係問題を抱える利用が増加している。具体的には、「法に触れる不適切な行動」「不登校」「養護・保護」等を理由とする利用である。

子どもサポートの領域は、障害のある子どものニーズに加え、前述にある新たなニーズの増加による対象領域が拡大している。

図表2 名護わかば園の利用推移状況					2017/03現在
	養護困難	養育困難	生活訓練	不明	合 計
2010	6	27	5	1	39
2011	7	26	7	1	41
2012	6	26	8	0	40
2013	4	24	5	0	33
2014	4	18	3	0	25
2015	6	15	2	0	23
2016	13	3	5	0	21

従って、サポートにあたって、心理的ケア含む教育保障、生活・社会スキルの獲得等に対する実践スキル（専門性）が求められている。子どもの保護はあくまでも手段であり、その後、必要とされる「自律と自立」を目的とするサポート機能の

強化である。相談支援（カウンセリング）、学習支援、食育プログラム（名桜大学）による体験学習を基本とする「生きる力」を育む実践に着手している。

実践課題を4つあげている。1つめは、障害のある子どもへの特化から子どもサポートへの意識の変化である。2つめは、多様な子どものニーズに対する知識とサポートスキルの獲得である。3つめは、子どもサポートプログラム作成とライフスキルトレーニングの実践である。4つめは、管理者のスーパーバイズ、コーディネイトスキルの獲得としている。

当該地域を対象にした子どもの教育、福祉に関する基本調査の結果を観ると、不登校に関して小学生38名、中学生138名になっている。Kids Libraryを利用は、小学生12名、中学生22名、高校生7名であった。復学のサポートにおいて、小学生1名、中学生4名、高校進学7名、就職1名となっている。

（kids Libraryは本来地域サポート領域）

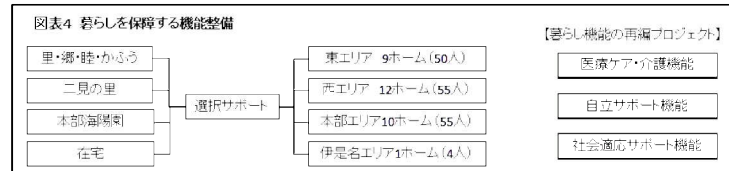
図表3 市町村別・理由別利用状況								2017/03現在
	名護	本部	今帰仁	東	国頭	うるま	浦添	全体
復学支援	12	0	2	1	1	0	0	16
保護	3	0	1	0	0	0	0	4
学習支援	15	2	0	0	0	1	1	19
その他	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	31	2	3	1	1	1	1	40

2 大人サポート領域の概念

大人サポート領域について、これからのサービス機能を明らかにするため、北部地域の大人を対象にニーズ調査を実施した。（2016/07/01）法人内部の対象者（図表4）に目を向けると、高齢化に伴う介護サービス、医療ケアにかかるニーズが増加している。一方、地域（在宅・グループホーム）のニーズを観ると、サービスの対象者及びその家族の高齢化による新たな対応が求められている。

まず、医療ケアの対応を可能とするための医療ケア検討準備

備室を設置した。これまでの住みなれた場所、地域生活（個性性の尊重）の保障、その意思決定のサポート、介護予防を含めたサービス機能整備として着手している。



（1）暮らし機能の整備について

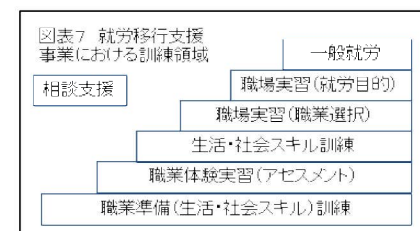
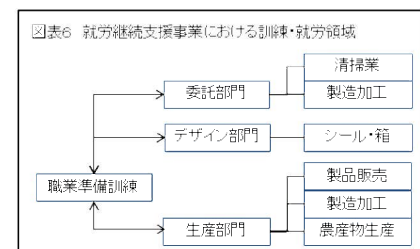
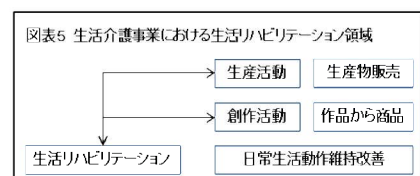
日常的に介護及び医療ケアが必要な状態は、障害者サービスより介護保険サービスが優先される。従って、その状態は、必然的に医療施設、介護保険施設への移行を意味している。これらの現状を打開に向けて、グループホームは、医療ケア、介護機能の整備を図るため、暮らし機能再編プロジェクトを設置して推進している。一方、障害者支援施設は、特別養護老人施設或いは、療養介護事業への機能変更、環境整備について、医療職を含めた検討を開始している。

（2）日中活動機能の整備について

今年度、伊是名漁業協同組合からの人材募集に対し、ひびき1名、ゆいとぴあ3名の4名が施設外就労（1月）に至っている。さらに、4名の住まいとして伊是名村にグループの設置を推進している。約10か月間、職業準備訓練、職場実習のサポートはひびき、ゆいとぴあが担い、生活サポートはひだまり、縁が協同で実施した。

当事者視点から各事業所における職業選択、体験機会のサポート環境が必要だとされた。これらのサポート環境を実現するため、「ひびき」「ゆいとぴあ」「ワークもとぶ」「かふう」の就労サポートプロジェクトが設置され、企画書の作成が取り組まれている。

生活リハビリテーション（図表5）は、日常生活動作の獲得を基本に段階的な創作活動や生産活動への体験機会を構築している。次に、職業準備訓練（図表6）を基礎とする職業体験機会の環境になっている。さらに、



就労移行支援事業（図表 7）の機能は、職業訓練、職業選択の機会を得て、一般就労を目指すプログラムを提供である。法人指針の掲げるキャリアアップのしくみ、サービスの選択機会と意思決定のサポートを重点目標にあげている。サービスの本質とされるサポーターの知識とサポートスキルの獲得は、期限のない目標としている。

3 地域サポート領域の概念

東海岸地域において、過疎化、高齢化対策の一環として、医療、保健、教育、福祉、消防、警察、企業等との連携により、子どもから大人（高齢）までのライフステージにおけるきめ細かな地域福祉の展開している。

まず、教育との連携について、緑風学園の幼稚園終了後、「ふれあいスクール（学童保育・定員 40 名）」としての機能を二見の里の保母を配置している。幼稚園では、発達障害のある児童を対象に特別教育支援員配置事業を名護市からの委託事業を展開している。今年度、5 校の幼稚園において児童 9 名の児童に対し、9 名の支援員がサポートにあたった。子どもサポートに加え、その家族含めた家庭支援（安心して働ける環境）との評価を得ている。

保健、警察との連携について、婦人保護事業による母子保護を実施している。（極めて個別のプライバシーであり詳細は割愛する）

地区の区長、民生員、名護消防署との連携について、定期的な防災訓練を基盤として、独居高齢者、希望される高齢者に対し、台風時等の避難支援や避難場所を提供している。それぞれ遠方で暮らす家族や近所で暮らす住民に「安心」の提供が喜ばれている。

医療との連携について、住み慣れた地域で「暮らし続けたい」ニーズ対し、居宅介護サービスを基礎にした終末ケア（看取りの支援）を大事にしている。

まとめ

子どもの生活問題は、大人との暮らし環境を背景に生じている。具体的には、貧困、児童虐待、法に触れる不適切な行動、不登校、ひきこもり等の生活に関わる問題の増加である。一方、大人の生活問題の主な特徴は、貧困、高齢化に伴う安心ある暮らし、介護予防、医療ケアのニーズである。

私たち法人は、多様なニーズを抱える子ども、大人の括りにして、個別性を尊重した受容、傾聴から質の高いサービス提供する環境の構築をめざしている。私たちの日々、サービス提

供にかかる実践を振り返り、自己研鑽、実践研究に基づく知識とサポートスキルの獲得に取り組み続けていきたい。そして、家族含む当事者からの評価、他者評価を謙虚に受け止め、自己評価による自己修正、承認を可能とする風土を構築する。

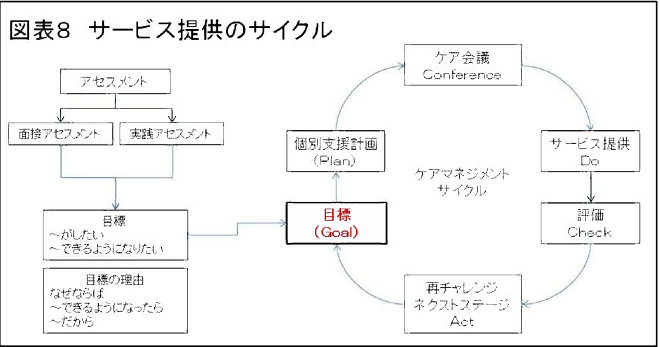


表1 児童入所施設

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
名護わかば園	20	7,103(19.46)	365	97%	62%

表2 短期入所

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
すくすく	10	1,794(4.91)	365	49%	45%

表3 児童発達支援・放課後等デイサービス

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
カラーズ	10	3,503(9.73)	360	97.3%	95.6%

表4 日中一時支援

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
カラーズ		777(2.16)	360		

表5 障害者支援施設

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
里	40	15,011(41.1)	365	102.75%	100.83%
睦	40	14,623(40.1)	365	100.1%	100.9%
郷	40	14,456(39.6)	365	99.0%	97.5%
本部海陽園	40	14,731(40.3)	365	100.9%	104.2%
かふう	20	1,095(3)	365	15%	—
合計	180	59,916	—	—	—

表6 生活介護

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
里	40	11,450(37.1)	308	92.75%	89%
睦	40	11,845(38.5)	308	96.1%	95.1%
郷	40	12,137(39.2)	308	98.0%	93.9%
本部海陽園	40	10,572(34.4)	307	86%	98.9%
かふう	20	1,641(5.9)	280	29%	—
合計	180	47,645	—	—	—

表7 生活介護事業(単独型)

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
桃の樹	40	10,048(34.2)	293	86.0%	92.8%
とらいあんぐる	20	6,311(20.2)	311	101%	82%

表8 短期入所事業

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
里	1	305(0.8)	365	83.56%	56.8%
睦	1	163(0.4)	365	44.6%	31.2%
郷	1	148(0.4)	365	40.3%	23.8%(0.2)
本部海陽園	2	365(1)	365	50%	
合計	5	981	—	—	—

表9 緊急保護

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
郷	1	308(0.8)	365	84%	—

表 10 共同生活介護・援助事業

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度	26 年度
ひだまり	106	38,172(104)	365	98%	97.2%	97.1%
縁	60	20,400(55.8)	365	96.18%	97.16%	99.1%

表 11 地域活動支援センターⅡ型

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
とらいあんぐる	20	775(2.5)	311	12%	14%

表 12 就労移行支援事業

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
ひびき	6	190(0.7)	256	17.79%	44.17%
ゆいとぴあ	6	381(2.4)	242	40.4%	51.1%

表 13 就労継続支援事業

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
ひびき	34	5,352(20.9)	256	61.49%	79.03%
ゆいとぴあ	34	8,875(32.99)	256	97.04%	100.44%
もとぶ	20	4,737(18)	271	88%	91%

表 14 一般就労移行者

事業所名	28 年度	27 年度	26 年度
ひびき	2	1	3
ゆいとぴあ	3	3	1

表 15 サービス付き高齢者向け住宅

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
あかがーら	35	9,945(27)	365	77.84%	58.62%

表 16 障害児相談支援指定特定相談支援の支援件数あかり(平成 29 年 4 月現在)

市町村	障害児相談	指定特定(者)	合計	備 考
名護市	8	63	71	
本部町	3	48	51	
今帰仁村	0	25	25	
大宜味村	0	7	7	
東村	0	1	1	
国頭村	0	5	5	
伊平屋村	3	1	4	
北部圏域以外	0	48	48	中南部圏域
合計	14	198	212	1人当平均件数106名 相談員配置数 2名

表 17 地域相談支援事業所 あかり(障害種別相談件数)

事業種別	知的	精神	身体	発達	合計
障害児相談支援	1	0	0	13	14
指定特定(者)	164	25	8	1	198
合計	165	25	8	14	212

表 18 サービス利用計画作成実績 あかり(H28 年度給付費請求実績より)

事業種別	サービス更新	モニタリング	合計
障害児相談支援	17	39	56
指定特定(者)	144	272	416
合計	161	311	472

表 19 障害者就業・生活支援センターティータ&チムチム(登録状況)

	身体	知的	精神	発達・高次脳・機能・難病	合計
在職中	43	102	66	16	227
求職中	59	69	89	16	233
その他	0	8	33	0	41
合計	102	179	188	32	501

新規求職者数(障がい別)

	身体	知的	精神	発達・高次脳・機能・難病	合計
新規求職者	3	14	1	2	20

職場実習あっせん件数(障害別)

	身体	知的	精神	発達・高次脳・機能・難病	合計
職場実習	2	28	6	5	41

就職件数(障がい別)

	身体	知的	精神	発達・高次脳・機能・難病	合計
就職件数	4	18	6	2	30

支援件数(障がい別)

	身体	知的	精神	発達・高次脳・機能・難病	合計
支援件数	386	2,651	563	741	4,341

表 20 二見の里

事業所名	定員	延べ利用者数	年間営業日数	28 年度	27 年度
通所介護事業	35	8,866(28.6)	310	81.7%	73.4%
介護保険事業 障害ホームヘルプ	なし		365	81.3% 対前年比	214.7%
			365	137.5% 対前年比	96.9%
居宅介護支援事業	94.2	751(62.6)	242	66.5%	67.3%
小規模多機能事業	25	267(23)	365	92.0%	88.0%

事業所名	定年退職	依願退職	新規採用	増減	臨時退職	臨時採用	増減
里	2	1	0	-3	1	3	2
陸	0	2	1	-1	1	1	0
郷	1	0	1	0	2	3	1
海陽園	1	0	0	-1	1	0	-1
ひだまり	0	0	1	1	9	10	1
緑	0	1	0	-1	0	2	2
とらいあんぐる	0	0	0	0	0	2	2
桃の樹	0	0	1	1	1	1	0
わかば園	0	0	1	1	0	3	3
カラーズ	0	0	0	0	0	0	0
ひびき	0	0	0	0	3	4	1
もとぶ	0	0	0	0	0	1	1
ゆいとぴあ	0	0	0	0	0	0	0
二見の里	1	1	0	-2	4	4	0
チムチム	0	0	0	0	0	2	2
あかり	0	0	0	0	0	0	0
あかがーら	0	0	0	0	1	2	1
合計	5	5	5	-5	23	38	15

表 22 利用者動態

事業所名	退所	施設移動退所	新規入所	施設移動入所	その他	増減	緊急一時
郷	1 ※1	0	1	0	0	0	3

事業所名	本人	家族	職員	地域	その他	合計
里	2	1	0	0	0	3
睦	0	0	0	1	0	1
郷	2	5	0	0	0	7
海陽園	0	0	0	0	0	0
ひだまり	3	3	1	5	1	13
緑	3	0	0	2	0	5
とらいあんぐる	2	0	0	0	0	2
桃の樹	0	0	0	0	1	1
わかば園	0	0	0	0	0	0
カラーズ	0	0	0	0	0	0
ひびき	1	0	0	0	0	1
もとぶ	0	0	0	0	0	0
ゆいとぴあ	0	0	0	1	0	1
二見の里	0	1	0	0	0	1
あかがーら	0	0	0	0	0	0
合計	13	10	1	9	2	35

[illegible]

表 25 入院報告

事業所名	28 年度				27 年度		
	疾患	怪我事故	その他	計	疾患	怪我事故	計
里	15	0	0	15	17	1	18
睦	3	1	0	4	1	1	2
郷	5	0	0	5	8	0	8
海陽園	5	2	0	7	5	1	6
とらいあんぐる	0	0	0	0	0	0	0
ひだまり	6	0	1	7	14	1	15
縁	2	2	0	4	9	0	9
桃の樹	0	0	0	0	0	0	0
わかば園	3	1	0	4	2	2	4
カラーズ	0	0	0	0	0	0	0
ひびき	0	0	0	0	0	0	0
もとぶ	2	1	0	3	3	0	3
ゆいとぴあ	5	0	0	5	4	0	4
二見の里	0	0	0	0	0	0	0
あかがーら	0	0	0	0	0	0	0
合計	46	7	1	54	63	6	69